

## 若い世代との交流

● 土 屋 博 映

※本稿は、平成20年7月25日（金）、「宇都宮市栃木県教育会館」において、栃木シルバー大学400余名に講演した内容の基礎となった原稿をおこしたものである。なお、午前には、福田栃木県知事が講演し、土屋は午後の講演を担当した。

### ☆自己紹介

群馬県南牧村出身。県立富岡高校卒。東京教育大学大学院修士課程。筑波大学大学院博士課程。NHK ラジオ・テレビ講座講師。NHK 放送博物館講師。専門は中古・中世の語彙。国文学→国語学→言語学→コミュニケーション（流転の人生です）。

- 「ごきげんよう」（「ハイカラさん」、知っていますか）の挨拶から。
- 私はタメで生きています。どうぞ「つつちー」と呼んでください。
- 栃木県の思い出→国井久氏（大学の先輩）と立松和平氏（国井氏と同級生・栃木なまりが懐かしい）。大門桃介氏（栃木県出身、幼児時の小児科の先生）。小池正胤氏（大学の先輩・宇都宮大学教授）。
- 囲碁5段です（前記国井氏は囲碁部の先輩）。大田原マラソン（2時間54分40秒）参加経験有。ベストタイム2時間54分28秒（千葉・佐倉マラソン）。要するに体育会系です。
- 早起きが好き（午前3時起床）。田舎での草刈。朝の古典の読書（『枕草子』『方丈記』『徒然草』『奥の細道』『五輪書』）。万歩計（毎日1万歩目標）→こんなことでも「いきがい」になります。

☆目的→少子高齢化などから、世代間問題が生まれている。人間関係が煩雑な現代にこそ、若い世代とのコミュニケーションの取り方・対処方法を身につけましょう。

- 若い世代との交流がうまくいけば、人生、楽しいでしょう。そのために、「敵を知り、己も知り」ましょう。
- 中尾一人氏（早稲田大教授・本学短大教授・頑固）←→○水上勉（作家・柔軟）→パソコン、使うか、使わないか、どう考えますか。
- 頭をやわらかくして、自分の成長のためにいろんなことを知りましょう。若者に好奇心を持つ大人は他のことにも好奇心をもてます。「一事が万事」です。
- 「好奇心」は必要。チョイ悪おやじになりましょう。人生、楽しくなります。まずは「若者」をターゲットに、チョイ悪おやじへの道を開拓！そんな感じでいきましょう。

## 1、はじめに

「今時の若者は」という年配の方が昔から多い。「若い世代との交流」の問題とは、第一に「年配の方」と「若者」との異文化コミュニケーションと捉えることにします。

- なぜこのテーマが必要か？①寂しくなくなる（一人じゃ生きられない）②自分の成長（価値観の多様化）③若者への影響（未来を育てる責任）、などが考えられます。
- 異文化を知ることは別の価値観を知ること→価値観の多様性→おさしみにソースをつけて食べてどこが悪いのか？
- 『クリスマスキャロル』（ディケンズ・けちな老人が幽霊に導かれて改める）は参考になります。

## 2、コミュニケーション

「コミュニケーション」とは「伝達（交流）」。中心をなすのは、「こと

ば」です。

- 「伝達には『感情』と『意味』が関わる」（齋藤孝・岩波新書）  
感情と意味がうまくかみ合う会話がベストです。
- 「離婚寸前の夫婦・新婚の夫婦・恋人同士」（大野晋・岩波新書）  
言葉はいるか、いらぬか、通じるか、通じぬか、コミュニケーションの根本は？
- 「世の中を暖かく見つめよう（やさしい目・笑顔）→やさしく話しかけよう→死ぬまで青春→自然に人脈ができる（広がりができる）」と思います。

### 3、若者

「若者」の定義は「大人でない」こと。「大人」との相違は何でしょうか。

- 「一般的には20歳代前半まで。モラトリアム。独自の「若者文化」。（若者言葉・ネット）
- 「社会的責任や義務から免除。社会を批判しながら自己を確立しようとする。その文化をもっとも顕著に表すのが『若者言葉』である。」（若者言葉・ネット）
- 集団で悪いことをする→ギャングエイジ・暴走族などを参考にしよう。

### 4、若者言葉

「若者言葉」とは「主として若者が用いる言葉」です。それにはどのようなものがあるか。またそれをどう評価するか、考えてみましょう。

「①仲間との連帯②権威に対抗③権威への攻撃性・否定性④権威的言語に対立⑤独創性⑥奇抜⑦嘲笑的⑧流行に敏感⑨語彙が貧弱」（若者言葉・ネット）

- 「大人は昔から大人であったかのような錯覚をもつ」（若者言葉を楽

しみましよう・ネット)

- 自分の昔を思い出しましよう
- 「大人の若者言葉批判→①他者による若者言葉は日本語を乱すという批判②親がわが子の言葉遣いを批判」(若者言葉を楽しみましよう・ネット)
- 「若者言葉は若者同士のカジュアルな談話場面で使われる。大人がフォーマルな物差しだけで評価するところに間違いがおきる」(若者言葉を楽しみましよう・ネット)
- 「若者言葉のルールを知ると、それほどムカつくこともなくなる」(若者言葉を楽しみましよう・ネット)

## 5、対処法

「若者の理解」(異文化理解)という精神が根底にあることが必要です。「若者」を知りましよう。

- ①「言葉とは、人生に寄り添う愛しい道連れ」(天声人語・朝日新聞)
  - 「世間ずれ」(①世の中の考えからはずれている②世間を渡ってきてずるがしこくなっている)は、若者は①にとります。「やばい」「私的には」「うざい」などの若者言葉についても考えてましよう。
- ②「言葉は時代とともに変わるもの」(私もひと言・日本経済新聞・22才女子大生)
  - 「変化を乱れとしかとらえられないのはよくない」(同・46才主婦)
  - 「言葉も文化なので次々、新しい表現が登場することは悪くないが、やはり美しい日本語も大事で、残していきたいものだ」(同・34才自営女性)
- ③「現代の若者は、うまく他人と距離を置き、したたかに自分の思いを伝えるたくましさを持っている」(もう一度キャンパス・日本経済新聞・梶原しげる)
  - 「言葉遣いから見えてくる若者心理」

- 「若者が曖昧にぼかす表現を使うのはなぜか」→「対人関係の希薄化?」「伝達能力の未熟さ?」
- 「曖昧表現を多用する若者は濃密な人間関係を好まないが、自分の言い分を上手に相手に伝える技術を持っている」
- ④『この表現は間違い』と一律に決めることは、かなり難しい」(ら抜き言葉・朝日新聞)
  - 「ら抜き言葉」は100年以上前から存在します。
- ⑤「外見だけでなく内面や性格を大切に考える保護者の思い」(広がる内面重視・日本経済新聞)
  - 「かわいい」→「やさしい」
  - 「低年齢の子供の事件が多いことが影響か」
- ⑥「Y世代は上の世代が思う以上に重く受け止めている」(理解を求めて・読売新聞)
  - 「年上の人たちに何をどう話せばいいのかわからない」(同・20歳女子大生)
  - 「同世代と話す時のように相手が期待しているものを推測できない」(同)
  - 「励まされたので頑張れた」(高島忠夫・フジテレビ・うつ病)
- ⑦「今の大人たちとすべて反対のことをすればよい」(さだまさし・読売新聞)
  - 「よく人の話を聞き、人と話すこと。『国とは国語なり』だ。友人を大切にし、礼節を重んじ、学歴を妄信せず、きちんと人の心を見つめ、年寄りを大切にし、子供を守り、男女はお互いを尊重し、譲り合い、愛し合う」(同)
  - 「学生だからだめだとか、教授だからいいとか、学問にはそんな考えは通用しない」(小松英雄)
  - 「食べ残しといわないでください」(吉兆・報道)
  - 「すべて僕たちが悪いです。放送中止にしてもらいます」(渡哲也・

産経新聞・西武警察)

- 「べんかいのうまい人間、あやまりっぷりのいい人間」(あいだみつを)
- ⑧「愛情がなければ大人と若者との信頼関係は生まれない」(新・若者論・朝日新聞)
  - 「必要なのはヒステリックな若者たたきの議論に踊らされず、思案を重ね現状を見つめる冷静さ」(同)
  - 「私はあなたを大切に思うというメッセージを伝え続けること。困っているときに逃げないで一緒にいること。大人と同じ社会に生きていることを実感させること」(同)
  - ジョナサンの若者・トラックの若者・オートバイの若者など、若者像について考えてみましょう。(土屋)
- ⑨「仲間意識強める」(女子高生は方言好き・読売新聞)
  - 「～だべ」「～じゃけん」「でらちばりょー」
  - 「方言は女子高生たちにとって一種の謙譲語の役割を持つこともある」
- ⑩「若者に対する批判は控えるのが分別ある態度」(若者への批判は的外れ・読売新聞)
  - 「今の大人世代が、若者たちに生き方のモデルを示せなかったため、若者たちがそのツケを払わされている」(同)
  - 「旧世代は、新世代に対する自分たちの責任を自覚し、新世代が提示する新たな価値観をはねつけるのではなく、容認する姿勢に改める責務がある」(同)
- ⑪「言葉はその時代の人の気持ちを表すために変化する」(朝日新聞・声)
  - 「言葉は時代を表わすものだから、変化しても当然だ。古文に出てくる言葉と、現代の言葉が違うのも変化の結果だと思う」(同)
- ⑫①ありえない②うざい③やばい④大丈夫(若者言葉)など、若者言葉

を再度考えてみましょう。(土屋)

- 「若者たちは傷つきやすい。表現をソフトにし、互いに傷つくことを防ぐ。ジョークで笑いを取り、連帯感を強めることもある。これが若者言葉を支える精神構造なのだ」(山口仲美・読売新聞)
- 「若者と中高年が互いに、世代間ギャップのある言葉に興味を示しあうこと、そういう中から、言葉を媒介にした若者と中高年の豊かなコミュニケーションが生まれるのではないだろうか」(同)
- 若者言葉こそ言語を変遷させる原動力の一つであると思います。
- 若者言葉は、若者が仲間意識をもって使う、位相語の一つ(おやじ・おばん言葉の対義語)で、その中には流行語・タメ語・コンビニ語・暴走族語もあります。その特徴は、「仲間意識→大人世界への反発→省略・婉曲・改変」です。規範の通常語に対する若者特有の自由さが、大人に危機感を抱かせるのです。
- 「にてあるべし→であんべい→だんべい→だんべ→だっぺ」という変化があります。

⑬「同じ時間を共有する機会をつくること」(今、輝いているおやじ達・22歳女子大生)

- 「1、何歳からおじさん。2、おやじとは。3、おやじとおじさんの違い。4、チョイ悪おやじは。5、だめなおやじ、よいおやじとは。6、若者のいいところは。7、昔と比べて、おやじと若者の交流は。8、若者に何を求める。9、若者とおやじが理解するのには。10、若者に一言。(22歳・女子大生)
- 「今の若者たちは、人付き合いは上手だがどこか冷めていて、ハングリー精神が欠けている。おやじたちはその逆で、人付き合いは苦手でも熱い心を持ち、ハングリー精神がある。正反対だからこそ、上手くないだろうか」(同)
- 「青梅の祭り」「よさこいそーらん」など、若者が地域と密着する祭もあります。(土屋)

- ⑭「学生が変わったのは70年代の終わりから」(『されど われらが日々——』64年)
- 「男と女が一緒にいるってことは、それだけでかなりいいことなんだよ」(同)
  - 「偏差値システムに組み込まれ、自らの行動を自己決定するという近代文学のテーマを信じられなくなった。90年くらいからは本を読まなくなりましたね」(柴田翔)
  - 「江川と江夏」「キャプテン翼と巨人の星」「ハンバーガーとおにぎり」の違いです。
  - 「手動公衆電話→ダイヤル公衆電話→カード公衆電話→自動車電話→携帯電話(レンタル)→ポケベル→携帯電話」の変化が文化の変化です。
  - 「オルゴール→レコード→カセット→CD→DVD」の変化が文化の変化です。
  - 「ハンドル付きの自動車ゲーム→パソコンゲーム」と変化しました。
  - 「デパートの屋上→ディズニーランド(デズニーランド?)」と変化しました。
- ⑮「子供たちは親や教師に真剣に叱ってほしいと願っている」(子供と向き合う・山口良治)
- 「つらいのは自分だけではない、と気づかせるのが大切です」(同)
  - 「どんなに気をつけても傷つける」「重要なのは修復する勇気」(カウンセリング研修)
- ⑯「今の世の中には『大人の優しさ』が足りない」(貧乏は恥じゃない・松本零士)
- 「昔、大人は優しかった。道で出会っただけの子供でも、手を差しのべた。怒るときは真剣に怒りました」(同)
  - 「志をたてて頑張る若者を、社会全体が励ます風潮を確立しなくてはいけない。頑張れ、と声を書け続けるんです」(同)

- 受講態度をしかられて謝りに来た女子大生がいました。若者も捨てたものじゃない。
- ⑰「相手の話を素直に聞くこと」(夫や子との会話がなない・41歳・パート勤務)
  - 「何してるの。あなたはだめね」とお互いに相手を裁きあっていた。
  - 「なるべく家族いっしょに食事をとる」「お茶だけでもつきあう」
- ⑱年配の方へのエール→タメで生きましよう
  - 生涯学習に興味→70パーセント強。実行→50パーセント弱(日本経済新聞)
  - 「外でおばあちゃんと呼ばれたくない」(朝日新聞・天声人語)
  - 「今年の流行語大賞は堅いような『後期高齢者』の不評」(同)
  - 「涙が出るほど厳しくて、つらくて、うれしい」(日本経済新聞・75歳でエベレスト登頂の三浦雄一郎)
  - 「老年についてもっとも恐れなければならないのは精神の怠惰である」(吉川敏一)
  - 「若さは未熟、粗雑、未完成な状態で、それを過ぎて熟していくことに価値がある。老いる過程を楽しめば別の世界が広がるのではないか」(ひろ・さちや)
  - 「社会の監視人か文化の担い手か」(老の役割って何?)
  - 「中途半端のろくでなし」という言葉は面白いです。(土屋)
  - 「では、さらば」(マークトウエイン・ハレー彗星とともに)

## 6、おわりに

「若い世代との交流」は必要であり、かつ重要である。年配とか、若い世代とかに限らず、人間は、「言葉」を身につけて以来、「言葉」によるコミュニケーション(つまり、交流)が必需品となっている。交流なしに生きることは不可能と言ってよい。同世代間の交流は容易である。生きた時代・環境が同じだから、感覚がつかめる。つまりスムーズに交

流を開始できる素地が整っている。だからといって、同世代間ばかりの交流でよいのか。文化人類学的に言えば、それでは人類の発展はない。松尾芭蕉の「不易流行」という言葉がある。また『論語』には「温故知新」という言葉もある。年配の方が若い世代との交流を望むのは、実は正しい。逆に言えば、若い世代も年配の方との交流を望まなくてはならないのだ。人間は歴史の中に生きている。現代人は、いつも歴史の最先端にいる。過去の歴史を背中に負いながら生きている。現代のあらゆるもの、「もの」も「ところ」も「ことば」もすべて、は歴史上の産物である。年配の方は少し前にその産物を受け取った。若者は、今その産物を年配の方から受け取っている。その産物をお互いに知り合うことこそ、正しい人類の歴史認識が可能となる。年配の方は、自分たちが受け取った歴史上の産物を、若者がこれからどう生かしていくのかを知ることができる。若者はその逆を知ることができる。簡単にまとめれば、「若い世代との交流」により、年配の方も若者も、知識や価値観が広がり、歴史を正しく認識し、人間的に成長し、人類の発展にも役立つということだ。年配の方は胸を張ってタメで「若い世代との交流」に積極的であってほしい。

○「いのちが 一番大切だと 思っていたころ 生きるのが苦しかった  
いのちより大切なものがあると知った日 生きているのが嬉しかった」(星野富弘)

※星野富弘さんの素敵なお言葉です。「いのちより大切なものがある」というところに注目してください。

○いつでも君は (水前寺清子)

心と 心の 細道を あなたの小さな 親切が  
ぽとんと 落ちて きらりと燃える  
ろうそくの火が 燃えて 広がる  
一本が 十本に 十本が 百本に 百本が 千本に 増えてゆく  
いつでも いつでも いつでも君は

夢見る 夢見る 夢見る 星よ

※コミュニケーションの歌です、味わってみましょう

○りんごの歌（並木路子）

赤いリンゴに 口びるよせてだまって見ている 青い空

リンゴは なんにも いわないけれど リンゴの気持は よくわかる

リンゴ可愛いや 可愛いやリンゴ

※古くてもよい歌は堂々と若者の前で歌うべきです

○若者言葉での挨拶

「今日は、みなさん、マジおつかれー。ナニゲニすてきッテイウカ、フツーニすばらしいつっちーの講座はヨロシカッタデショウカ。ま、ワタシテキにはヨロシカッタンジャアナイデスカ。ナノデ、ウザイ・キモイ、などと思わないで、チョウスゴイ・ヤバイ、つっちーカワイイと考えて、再びみなさんをミレルことを、心から願ってます、ナーンチャッテ。え？ダサイって？マジ、アッリエネー。」（土屋）

○「ごきげんよう」